

2018年11月1日

みずほディーラーズアイ (2018年11月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

*見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 111.00 ~ 115.00

国際為替部 為替営業第二チーム 上野 智久

先月の為替相場

10月のドル/円相場は、序盤に年初来高値を更新するも、その後は軟調な株の動きに振られる展開となり、一時111円台前半まで下落する局面もみられた。

月初1日に113円台後半でオープンしたドル/円は、北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉の妥結などを背景に114円台前半まで上昇。2日は序盤に113円台半ばまで下落するも、パウエルFRB議長の米経済に関する楽観的な発言を受け113円台後半まで反発。3日は、伊財政問題の進展期待からリスクセンチメントが改善。米債利回りが上昇する中で4日の序盤には、年初来高値となる114.55円まで上値を伸ばした。しかし、米金利上昇を嫌気して米株が下落に転じると113円台半ばまで反落した。5日に発表された9月雇用統計は強弱まちまちの結果。発表直後に114円台を付けるも、米株が軟調推移になると113円台後半に下落。東京休日の8日は独指標の悪い結果を受けリスク回避ムードが強まると、ドル/円は112円台後半に下落。9日は中国景気の先行き懸念や伊財政懸念が煽る中で113円台前半での上値の重い推移。10日は米株が大幅安になる中で112円台前半まで下げ足を拡大、11日も軟調となり一時112円台割れとなった。

15日はサウジアラビアの反政府記者が死亡した事件を受け、米・サウジ間の緊張が高まるとの懸念から111円台半ばまで下落。しかし、16日に米株が反転上昇すると112円台前半へ。17日はFOMC議事要旨で中立金利を上回る水準への利上げを必要と主張したメンバーの存在が確認されると米金利が上昇し、一時112円台後半まで急伸した。18日に上海株・米株が下落する中、一時112円を割り込む水準に下落するも、19日は伊財政問題・英EU離脱交渉の進展期待から、112円台半ばまで戻す展開となった。22日は習中国国家主席が民間企業の支援方針を示したことで中国株が急伸。リスク選好ムードが強まるとドル/円は112円台後半まで上昇。しかし、23日に中国株が反落。24日もNYダウ平均が年初来マイナスに転じるなど冴えない株の動きに112円台前半まで下落した。25日にドラギECB総裁が欧州経済について弱気な見通しを示す中でユーロ売りドル買いが強まり、ドル/円は反発する局面もあったが、26日には米株の冴えない動きもあり、月安値111.38円まで下落した。29日は欧州株が堅調推移となる中で小確りとした推移。30日にはトランプ大統領が「対中貿易で素晴らしい取引見込む」との発言を受けリスクセンチメントが改善。31日についてもドル/円は確りとした推移となり、112.96円で越月した。

今月の見通し

11月のドル/円相場は上値の重い展開を予想する。

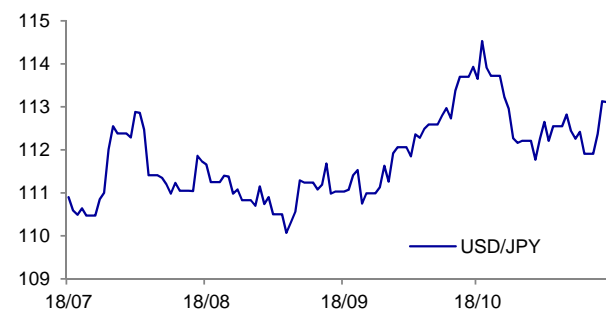
とりわけ10月後半のドル/円は、株式市場の動きに振られる展開となった。根底にあるのは更なる米中貿易摩擦の悪化懸念、並びに貿易摩擦の実体経済への影響を見極める動き。米国企業の中には、中国に対する追加関税による企業のコスト増に言及するなど、一部に影響が出てきている状況。米国と比べて良好な経済環境ではなく、また米国からの更なる追加関税の懸念が煽る中国については、31日発表の中国10月製造業PMIは、2年3ヶ月ぶりの水準まで低下している状況。習中国国家主席が民間企業の支援方針を打ち出すなど、中国当局の景気刺激策が期待される環境下、直近は中国株が底値を打った感も見られるが中国元が対ドル・対円で元安トレンドを形成していることなども踏まえると、依然として中国景気の低迷リスクは残存しているといえよう。11月末のG20にて米中首脳会合が開催され、貿易摩擦に関する議論が行われる見込みであるが、米国は貿易摩擦解消に向けた進展が見られなければ、12月初旬までに新たな追加関税発動を発表する用意がある、との報道も見られる。米中通商協議については過去、交渉が遅々として進まず、現在は通商協議が中断されている状況。短期間での状況の好転を望める環境には無いと考えている。

他方、伊財政懸念については、伊政府が提出した予算案についてEU側が「EU規則を前例のない形で破っている」として対立している状況。30日に発表された伊7-9月期GDPはゼロ成長となり低成長にあぐら状況下、コンテ伊首相は財政拡張の必要性を主張している状況。EU側が設定した修正予算案の提出期限である11月中旬までに大きな方針転換が行われる蓋然性は低く再びリスクが意識される展開も想定されよう。

米中貿易摩擦の激化、中国景気減速懸念、伊財政問題への懸念、そしてブレグジット。一朝一夕での事態の進展を望みにくいリスク要因が複数ある中で、リスクセンチメントが良化する展開は想定しにくい。ドル/円については、欧州発のヘッドラインで一時的にユーロ売りドル買いの影響からドル/円が強含む局面も考えられるが、基本的には上値の重たい推移になるのではないかと考えている。

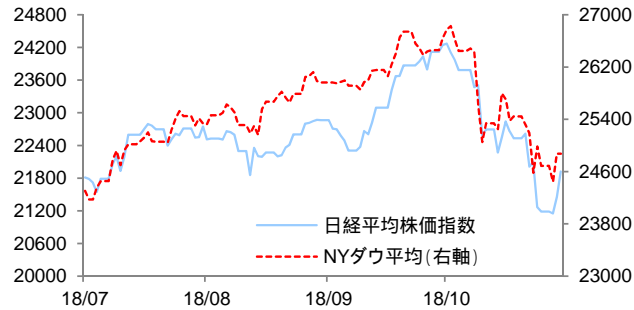
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	ISM製造業景況指数	9月	60.0	59.8	61.3
10/3	ISM非製造業指数	9月	58.0	61.6	58.5
10/5	非農業部門雇用者数変化	9月	185k	134k	201k
10/5	失業率	9月	3.8%	3.7%	3.9%
10/5	平均時給(前年比)	9月	2.8%	2.8%	2.9%
10/11	消費者物価指数	9月	2.4%	2.3%	2.7%
10/15	小売売上高速報(前月比)	9月	0.6%	0.1%	0.1%
10/17	住宅着工件数	9月	1210k	1201k	1268k
10/26	GDP(年率/前期比)	3Q	3.3%	3.5%	4.2%

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上